



子育てチャンネル

20年後のあなたは何をしていますか？

昨年の夏休み前に、私は道内のある進学校に招かれ「将来の夢」について話す機会があった。その学校で教師をやっている長年の友人からの依頼だ。

事前の電話やメールでの打ち合わせで、なぜそのテーマを選んだのかを尋ねた。「近ごろの子供たちには夢がない。授業の課題で『20年後のあなたは何をしていますか？』という題目で作文を書かせたところ、まともに書けた学生が一人もない」。

その友人は溜め息をつき、首を横に振りながら答えた。「そんなはずはない」。私はとつさに反論した。

若さには、あらゆる方向に好き勝手に向かうことのできる無限大の可能性が伴う。若さゆえの突拍子もない、非現実的な夢を語ることはあっても、夢がないのはありえない。

講演の当日、最初のスラ

イドに、あえて「20年後のあなたは何をしていますか？」と書いた。

薄暗い体育館で私のパソコン係をしていた友人は「あつ」と小声を発した。会場の学生だけでなく、教師からもどよめきに似た声が漏れる。

私はマイクを持ち、会場の学生一人ひとりの声を聞いて回った。

「分かりません」「えっと...」「仕事してます」「主婦、かな?」。真顔の学生からは、小声で曖昧な返事しか返ってこない。友人が「ほら、言ったでしょう?」という視線を送ってくる。

スライドは「10年後のあなたは...?」「5年後は?」「1年後は?」と続いた。

マイクを向けられた学生の表情は少しずつほぐれ、部活や勉強やアルバイトの具体的な話が出てきた。「1年前のあなたは何をしていましたか?」。

質問を将来ではなく過去に変えてみた。学生たちは、横や後ろの友人の方に顔を向けてしゃべり出し、はつきりと「学校祭の出し物の練習をしていました」

「大会前の走り込み中だったと思います」と答えてくる。「5年前は?」「10年前は?」。

ここまで来ると、会場から「ちっちゃかったので、よくわかりません!」と誰かが大声で答える。会場がドツと笑いに包まれる。

次のスライドでは、あらゆる職種の人物が写っているカラージュ写真を見せた。キー職人、漁師、電気工、ピアニスト、看護師、野球選手、研究者などの姿を。再び「20年後のあなたは何をしていますか?」と書いた最初のスライドを出した。

すると「家庭を持って、子供が3人います」「和菓子職人としてフード・オリエンピックに行ってます」「プロ野球選手になって、年俸1億を稼いでいます」。さっきまでボソボソ話していたのと同じ学生たち?と思うほど次々と夢が語られたのだ。

子供たちには夢がないわけではない。周りにいる大人は、その夢を自由に語る勇気をきちんと作ってあげることが大切である。

医師 及川 啓